

第3学年 国語科

1. 国語って何を勉強する教科？

国語の学習は、社会の中での活動や文化活動の基本となる、言葉を通して伝え合う力を養うものになります。国語の最も基本的な役割は、言葉や文字によって気持ちを伝え合い、コミュニケーションを成立させることです。その力をつけるためには、まず言葉について興味・関心をもって読むこと・書くことの学習に取り組み、言葉に関する知識を広げることが大切です。日常生活のいろいろな場面をとらえて、言葉を磨いてほしいものです。さらに、情報化社会といわれる中でさまざまな情報を収集し、分析し、活用することも必要です。

全ての教科学習の基礎となる国語の力は、すぐ身につくようなものではありません。自分を取り巻く毎日の生活や学習、体験から次第に育まれていくものです。学校生活や授業の中で、話す、聞く、書く、読む活動を大切にして、国語の力を伸ばしていきましょう。

2. 学習の仕方

○授業の中で大切にしてほしいこと

- ・習った漢字は、必ず使いましょう。
- ・読めない漢字は、必ず読み仮名をふりましょう。（覚えれば消しても良いです。）
- ・自分が後からみてわかりやすいノートにしましょう。
 - 授業内容をノートにわかりやすくまとめ、自分の考えや友達の意見などをメモしましょう。大切だと思うことは書き加えたり、色ペンを効果的に使いましょう。
- ・質問に対して、自分なりの答えを出せるように考えましょう。
 - わからないからといって、他の人が答えるのを待つのではなく、自分のことばで考えるようにしましょう。
- ・積極的に質問したり、発表するときと、しっかり聞くときのけじめをつけるようにしましょう。

○家庭学習で取り組んでほしいこと

- ・短い時間でも、毎日の授業の復習をしましょう。（ノートやプリントの見直しなど）
- ・文学的文章も説明的文章も、基本はよく読むことです。教科書を、何度もはっきりと声を出して読みましょう。（目、耳、口を使うことで効果があります。）
- ・意味のわからない語句は、国語辞典で意味を調べて確かめておきましょう。
- ・漢字は自主ノートや漢字練習帳等を使って、一画一画を丁寧に書きながら、繰り返し練習して身につけましょう。最後にテスト形式で確認してみるとよいでしょう。
- ・教科書に沿った問題を解いてみましょう。
- ・新聞を読んだり、テレビでニュースを聞いたりする習慣をつけましょう。
- ・時間を見つけて、読書をするように心がけましょう。
- ・漢字検定にチャレンジして、漢字力を伸ばしましょう。
- ・国語の問題集で、いろいろな問題を解き、読解力をつけましょう。

○受験勉強は？

【漢字・語句】…「入試によく出る漢字」などの問題集を使って読み書きを繰り返しテストしましょう。熟語の構成、ことわざ、慣用句、故事成語、四字熟語などは便覧で覚えた後に問題集を使うとよいでしょう。

【文法】…それぞれの品詞の働きについてノートや文法ワークを見直してしっかりと理解しましょう。その後に問題集を使っていくと力がつきます。それぞれの品詞が見分けられるようになると、どんな問題にも対応できます。

【古典】…歴史的仮名遣い、返り点のルール、係り結びをしっかりと覚えましょう。古語を理解するには便覧の「古文の語句」が役に立ちます。たくさん問題を解いて、古文に慣れていくとよいでしょう。

【文章問題】…定期テストとは違って、初めて読む文章で読解力を試されるのが入試です。問題集を使って、様々な出題パターンに慣れましょう。詩歌の技法は便覧を使って復習しましょう。

☆私立高校は、過去問を解いて出題傾向をつかみましょう。慣用句が多い、文学史が必ず出題される、200字程度の作文があるなど、特色がつかめれば対策が練れます。

3. 一年間の学習内容と目標

国語科の目標

- ・国語についての知識を深め、話す方法、聞く方法、書く方法、読む方法を身につけよう。
- ・語彙を増やし、語感を磨こう。

		※目標を達成することができたら○をつけ、自己評価しましょう。	1学期	2学期	学年末	
(一) 話す	目標①	話題に応じて自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、話すことができる。				
	目標②	相手の反応を踏まえ、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。				
	目標③	論理的な構成や展開を考えて、資料などを活用して説得力のある話をするすることができる。				
	目標④	課題の解決に向けて、互いの考えを生かしながら話し合うことができる。				
(二) 聞く	目標①	話された事柄や話の中心を聞き取ることができる。				
	目標②	共感、疑問、反論などを整理して聞くことができる				
	目標③	話し手の意見やその根拠を確かめながら聞き、自分の考えを深めることができる。				
	目標④	話し手の表現の仕方の優れている点を見つけ、自分の表現に生かすことができる。				
(三) 書く	目標①	課題に対して根拠を明確にし、自分の考えを深めながら書くことができる。				
	目標②	文章の展開や表現の仕方を工夫したり、例や資料を適切に引用したりして、説得力のある文章を書くことができる。				
	目標③	自分の書いた文章を読み直し、目的にあったわかりやすい文章にすることができる。				
	目標④	論理の展開や表現の仕方を互いに評価し合い、自分の考えを深めることができる。				
(四) 読む	文学的文章	目標①	文章全体を正しく音読することができ、あらすじや登場人物をとらえることができる。			
		目標②	場面ごとの描写をもとに、登場人物の心情や情景をとらえることができる。			
		目標③	登場人物の心情や情景描写から、作者のものの見方や考え方を読み取り、作品の主題をとらえることができる。			
		目標④	文章を読んで人間、社会、自然などについて考えて自分の意見を持ち、表現することができる。			
	説明的文章	目標①	文章全体を正しく音読、話題をとらえることができる。			
		目標②	文脈の中における語句の使い方に注意して読み、文章の構成や展開の特徴をとらえることができる。			
		目標③	文章全体の要旨をとらえ、根拠を示しながら筆者の意見や主張をとらえることができる。			
		目標④	自分の立場や根拠を明確にして自分なりの考えを持ち、表現することができる。			
	古典	目標①	歴史的仮名遣いや区切れ、返り点に注意して正しく音読することができる。			
		目標②	古語の意味や文法上のきまりを理解して、おおよその内容を理解することができる。			
		目標③	歴史的背景に注意して古典を読み、登場人物や作者の思いを想像することができる。			
		目標④	古典の一部を引用して話したり、文章を書いたりして古典に親しむことができる。			
(五) 言葉事項	目標①	習った漢字を文や文章の中で使うことができる。				
	目標②	時代や世代による言葉の変化を理解し、敬語を適切に使うことができる。				
	目標③	助詞や助動詞の働きに注意することができる。				
	目標④	慣用句、四字熟語など、言葉に対する知識を広げることができる。				

4. 評価の観点・内容及び評価方法

<p>知識 技能</p>	<p>定期テストで学習内容を十分理解できる。 漢字の読み書きができる。 語句や文法事項を理解できる。(古典を含む) ていねいに文字を書くことができる。(硬筆・毛筆) ☆(4)読むこと(5)言語事項</p>
<p>思考 判断 表現</p>	<p>人の話を聞いて内容を理解し、自分の考えを持つ。 聞く人にわかりやすいように意見を言ったり、スピーチをしたりできる。 話し合い活動にしっかりと参加し、意見交換できる。 感想を書いたり、意見を書いたりできる。 作文や詩・短歌・俳句を創作できる。(正確に・豊かに) 文章を読んで、内容を理解できる。 理解した内容にふさわしい音読ができる。 理解したことや考えたことをノートにまとめることができる。 ☆(1)話すこと(2)聞くこと(3)書くこと</p>
<p>主体的に学習に 取り組む態度</p>	<p>先生・友達の話聞く態度、発表、提出物、ノートへの意欲、忘れ物、作品・作者への 関心などを総合的に評価する。 ☆(1)話すこと(2)聞くこと(3)書くこと(4)読むこと(5)言語事項</p>

☆定期テストだけでなく、普段の小テストや授業中の取り組み・提出物などを見て、総合的に評価がつきます。毎日の学習を大切にしましょう。